

咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

「利子」と「利息」。皆さんはその違いをご存じだろうか。最近では、普段何げなく使っている言葉の意味を説明できないと、NHK番組に登場するチコちゃんという5歳児に「ポーッと生きてんじゃねーよ!」と叱られる時代である。

実は利子も利息も、その意味に大きな違いはなく、お金を貸したり借りたりする時に生じる対価のことである。世の中では慣用的に、お金を借りた時に払うのを「利子」、お金を貸した時に受け取るのを「利息」と使い分けがなされているようである。そして対価の大きさは、年2%といった金利で示されるのが一般的だ。

4月に成人年齢が引き下げられ、18歳以上は成人として金利が深く関わる契約も1人でできるようになった。本年度からは

「利子」と「利息」

備えとして、高校の家庭科で金融教育を学ぶことになった。家庭科の先生方は「まさか自分が金融まで教えるとは」と戸惑っている方も多いのではないだろうか。

金利の「イロハ」を教えてください。金融庁や金融広報委員会などのホームページ（HP）にいろいろとそろっている（もちろん無料）。筆者も若者に金利を教える機会があったの

で、早速調べてみた。

「金利には単利と複利があり、複利は利子に利子がつくため、単利と複利の運用の差は期間が長くなるほど大きくなる」「金利

には『72の法則』があり、72を金利（例えば年6%）で割ると、お金が2倍になる年数が分かる（年6%なら12年）」「100万円を年6%で運用すると、40年後には1千万円を超える」といった説明が、イラストやグラフを使って分かりやすく整理されている。筆者もそのまま引用しようとしたのだが、ふと、ある思いが頭をよぎった。

皆さんはお気付きになられたらどうか。皆さんは、これら資料には「運用」という言葉が使われている。運用は、金利によってお金を増やすものであり、慣用的に言えばお金を貸した時に受け取る「利息」である。一方、最近の若者にとって、金利の認識は「利息」とは少し違う。日本学生支援機構の調査によると、最近の学生の約7割が大学入学時から奨学金を申し込み、およそ2人に1

だろ

実は、これら資料には「運用」という言葉が使われている。運用は、金利によってお金を増やすものであり、慣用的に言えばお金を貸した時に受け取る「利息」である。一方、最近の若者にとって、金利の認識は「利息」とは少し違う。日本学生支援機構の調査によると、最近の学生の約7割が大学入学時から奨学金を申し込み、およそ2人に1

手元に残るお金を知る

人の大学生が奨学金を頼りに学業を続けている。また、金融広報中央委員会が先日発表した「家計の金融行動に関する世論調査」では、20代単身者で貯蓄ゼロと回答した割合が約4割となっている。それでも、周囲の若者に聞けば自動車を購入したり、脱毛サロンに行ったりと、何かとお金は要るのである。こうした現実を知ると、若者にまず教えるべき金利は、お金を借りる時に払う「利子」ではないかと思う。秋田県では若者の賃金（収入）を増やそうといろいろな取り組みを行っているが、彼らにとって費用（支出）となる「利子」の仕組みを教えることで、手元に残るお金をなるべく減らさないようにすることも大事ではないか。

最後に、そんな思いで私が若者向けに作った教材の一部を紹介しよう。以下の三つのケースで100万円の商品を購入した場合、皆さんはどれが一番、お金がかかると思いますか。

①100万円の現金で買ったが、怪しげな人から届いた「還付金」がもらえる」とのメールを信じ、手数料の20万円を指定口座に振り込んだ。

②街の中にある大手消費者金融のATMで100万円をキャッシングし、36回払いとした。

③大手信販会社のクレジットカードで100万円の商品を購入し、毎月1・5万円のりぽ払いにした。

大手消費者金融や大手信販会社のHPを参考に試算してみると、①は返ってこない20万円を含め120万円、②は年15%の金利が適用され約124万円、返済期間は3年間、③は年15%の金利が適用され約148万円、返済期間は約8年間となる。利子も利息も知っている大人の皆さんは正解できましたよね。（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉



〈随時掲載〉